

歴史は未来の羅針盤



『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、および第五巻「文化財編」は、各公民館や教育委員会において一冊四、〇〇〇円（税込）で販売中です。ぜひお買い求めください。また、第六巻「民俗編」の予約も受け付け中です。

町史編さん室では、町史の刊行に関連してさまざまな調査を行っています。今回は、平成十六年度から行っている地名・水利調査について、調査の内容とその成果の一端をご紹介します。

### 地名・水利調査の内容

ご存知のように、町内各地で進められてきたほ場整備は、農業の現代化に大きな役割を果たし、田地の安定的な耕作をもたらしました。また一方では、それ以降の農村のあり方にも大きな影響を与えています。なかでも村落の景観の変化はその最たるものといえるでしょう。

地名・水利調査は、聞き取りを通じてすでに失われてしまったかつての景観や水利を復元・記録し、その成果を町史に役立てようとするものです。



▲聞き取り調査の様子（蓮花寺）

調査では、明治時代の地券絵図などを参照しながら、あらかじめ地図に大字界・小字界・地番などの情報を転記しておき、そののち、地図をもとに調査先の地元の方々に詳しくお話を伺います。

地元の方々への聞き取り調査では、田んぼの灌漑の様子を中心に井（用水路）や道・溜池の名称、地元の人々の間でしか知られてい

ない俗称地名などを伺うほか、昔の暮らしの様子や祭祀に関する民俗・行事などについても聞き取ります。

### 調査から分かること

昔の景観や水利を復元し、かつての農業の様子を明らかにすることは、それ自体意義のあることですが、聞き取り調査を通じて得た情報は、各大字の特色をより深く把握するための手がかりともなっています。

例えば、溜池の管理や灌漑の技術、濁水時の給水に関する詳細な取り決めなどからは、かつては水がいかに貴重なものであったかが分かります。また、複数の村落を通る井の存在からは、関係する村々が時には対立しながらも、井の管理や掃除について連携しあっていたことが改めて確認できました。

大字の自治組織や祭祀に関する運営・役割分担のあり方も大字によって個性が見られるところです。例えば、役職の選び方や区長の仕事の範囲、組の役割などには、長い間に蓄積された自治のための知恵や工夫が見られます。

同様に、寺社との関わりをとっても、神主（社守）となる要件や順番に関する事、山の神や野神を始めとする自然信仰の執行に際しての決めごとなどにも、地域によって特徴的なものが見られます。かつての村落を取り巻く信仰は、今でも自治のあり方と密接に関わり合いながら、連綿と受け継がれていることが分かります。

地名・水利調査の成果の一部は、十一月に刊行予定の『近江日野の歴史』「民俗編」の内容にも、反映されます。また、続巻でも大いに活用していく予定です。

この調査は、今後、平成二十一年度までの二年間で町内全域の調査を終える予定です。町史編さん室から、各区の町史編さん協力委員の皆さんを通じて、調査のお願いをすることがあるかと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。